

記入日2025年2月18日

一般社団法人日本薬学生連盟 2025年度補欠選挙立候補申請書

立候補者氏名	塚本 有咲
立候補する役職	広報統括理事
大学/学部/学科	大阪医科薬科大学/薬学部/薬学科
学年	3年
所属	広報部、地域連携委員会、交換留学委員会
日本薬学生連盟での活動経歴	2022年 交換留学委員会所属 2023年 広報部、交換留学委員会、地域連携委員会所属 2024年 広報統括理事就任
立候補動機	私自身の大学生生活は、日本薬学生連盟と出会ったことでより楽しく豊かなものになり、今度は運営側として活動に関わることで団体に貢献したいと感じるようになりました。そして2024年度の1年間、広報統括理事を務め、団体の理事の内の1人として日本薬学生連盟の運営に関わらせていただきました。 この1年を振り返って考えると、広報統括としては薬学生に価値のある情報を発信することを理念において活動し、本部メンバーとしては団体の活動の質を上げることで全体の盛り上がりにつながるように、私にできることから工夫を重ねて活動を行ってきました。それによって様々な発見や得られた考え方があったと感じています。また、大いに成長できた部分は数えきれないほどありましたが、その一方でまだ実現に至らなかった活動計画や新しい課題も多く見つかりました。 本年度の経験から得たことを活かし、広報部をより素敵な部署にしたい、そして魅力あふれる団体にしたいと思い、来年度の広報統括理事に立候補させていただきました。
課題点と改善案	[課題点] - 活動頻度の高い部員が少人数に限られてしまっている現状ではあるが、部署全体のモチベーションを高めていく必要がある。 - 統括が部員の積極性を、より引き出していくための工夫をするべき。 - 部員間での共同作業や交流が少ない。 - 個人の成長の機会を増やすべき。 - 記事や活動に関する団体外への周知の良い方法を検討するべき。 [改善案] - 年間の活動計画や各活動の趣旨を部署全体で共有し、活動に参加しやすくする。 ワンシーズンに1回といった頻度である記事の作成タイミングだけでなく、その他の期間にも活動の機会を作ることで、部員の年間を通しての楽しみやモチベーションを保ってもらえるような工夫をする。 - 統括自身がキャパオーバーにならないように自己管理をしっかり行い、記事の作成や活動に時間的余裕を持って提案できるようにする。 - ミーティングや交流会の頻度を高め、統括だけでなく部員同士がコミュニケーションをとれる機会を増やす。取材後のひと時など、少しの隙間時間も交流タイムとして活かし、部員同士の仲を深めてもらいたい。 また個人での仕事だけでなく、複数人で共同で作業ができるように工夫して仕事内容等を検討したい。 - 部員が行った仕事に対してのアフターフォローの頻度を増やす。感想やアドバイスを互いに言い合える機会を作る。勉強会を開催し、部員の学びにつながる活動も取り入れたい。 - 今年度新たに行った広報の方法はあまり高い効果を得られなかったため、より良い方法を部員や他部署のメンバーなど多くの人の意見も取り入れて検討し、試行錯誤していきたい。

活動計画	[通年計画] ○薬事日報社「薬学生新聞」に掲載する記事の作成 ・年5回(4, 6, 9, 11, 1月)発行。 ・発行されたらSNSやメール等を通じて広報を行う。 ○エニイクリエイティブ「MIL」に掲載する記事の作成 ・年4回(4, 7, 10, 1月)発行し、日本薬学生連盟レポートの掲載記事を作成する。 ・部署紹介、インタビュー、活動報告等を記事にし、提出。 ・発行されたらSNSやメール等を通じて広報を行う。 [不定期活動] ○会員限定で「LOOP」を発行 ・不定期で会員向けに、薬学生新聞に掲載できなかった内容や各部署の活動の様子についての記事を掲載する。 ・掲載テーマに関しては適宜アンケートを実施。 ・作成した記事はSNSやメールにて発信する。 ○交流会・勉強会の実施 ・部員同士のコミュニケーション頻度の向上、部員個人の成長につながる学びを得てもらうことを目的として行う。
所信	広報部の部員はもちろん、団体全体の薬学生にとって、将来の進路や新しい挑戦のきっかけとなる価値のある情報を発信していきたいです。さらに団体外部の方々にも団体や記事に関して広く知ってもらい、薬学生が輝ける場所を広げていくことに微力ながら貢献できたらいいなと感じております。 2024年度に広報統括理事として団体や部署に関わったことで、良い意味で成長できたことは本当にたくさんありました。その一方で、直すべき部分や私自身の行動や考え方について自問自答する機会が多く、これまで見ないようにしてきた自身の欠点の要素を突き付けられてしまうこともあり、自身を改めて見直すことができた1年にもなりました。 過ぎればあつという間でしたが、自分自身についても社会についても、これまで経験したことのない視点から考えることができたことによって得られた、新たな気づきがあったので、このような大役を任せていただく貴重な機会をいただけたこと、本当に嬉しく感じております。ありがとうございました。 今年度得た反省や改善案を活かし、来年度はもっと楽しく活動でき、部員の皆さんにとって居心地が良く、思い入れの深い部署になるように尽力したいです。 そして広報部という1部署から回りまわって、団体全体がより素敵な魅力あふれる場になるように、良い影響を与えられる提案や活動を積極的に行っていきたいと思います。